

あしぎん香港レポート

2017年6月号

- 【調査レポート】 広東省について 1
- 【トピックス】 香港行政長官選挙区 3
- 【ニュース一覧】 4
- 【香港コラム】 香港で人気のスポーツ 5

足利銀行香港駐在員事務所
SUITE 1601, 16/F, TOWER2, THE GATEWAY,
HARBOUR CITY, TSIM SHA TSUI, KOWLOON,
HONG KONG
TEL:+852-2251-9475
FAX:+852-2251-9476

本レポートの内容につきましては、弊行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談下さいますようお願い致します。



足利銀行



めぶきフィナンシャルグループ

【調査レポート】

－ 経済発展を続ける広東省の現状と今後 －

1. はじめに

2015年4月に香港駐在員事務所を開設して2年が経過しました。当事務所がある香港を中心とした中国華南地域は、1979年に中国で初めて設置された経済特区(広東省深圳市、珠海市、汕頭市)を有し、安価な労働力を用いた労働集約型企業による低コストな製造拠点として、香港企業との委託加工貿易を盛んに行ってきた地域です。当地は、多くの日系企業の進出先として選ばれ、当行取引先も数多くの企業が進出を行ってきました。そこで、本稿では、華南地域と言われる広東省の現状と今後についてレポートします。

2. 広東省の概況

(USD1=109円/6.9人民元/7.75香港ドルにて換算)

	広東省			中国	香港	日本
	広州市	深圳市				
総面積(千km ²)	180	7	2	9,572	1	378
人口(万人)	10,999	1,404	1,191	138,271	737	12,693
GDP(億USD)	11,523	2,842	2,825	107,844	3,211	49,293
対前年比	+7.5%	+8.2%	+9.0%	+6.7%	+1.9%	+1.3%
第1次産業(億USD)	535	34	1	9,227	1	515
対前年比	+3.1%	▲0.2%	▲3.7%	+3.3%	▲3.3%	+3.6%
第2次産業(億USD)	4,981	858	1,116	42,932	3	13,937
対前年比	+6.2%	+6.0%	+7.0%	+6.1%	+2.1%	+6.9%
第3次産業(億USD)	6,006	1,948	1,708	55,684	2,745	34,221
対前年比	+9.1%	+9.4%	+10.4%	+7.8%	+2.2%	+1.8%
消費者物価指数(対前年比)	+2.3%	+2.7%	+2.4%	+2.0%	+2.4%	▲0.1%

各統計局HPより作成

広東省は、中国南部の南シナ海沿岸に位置し、香港・マカオと接した地域です。面積は日本の半分程しかありませんが、人口は1億1千万人弱おり、中国全体のGDPの約11%を占めています。広東省には、日系自動車メーカーも数多く進出しており、日本から見ると製造業を中心とした工業エリアのように思われますが、近年は幅広い産業が発展してきていることから、GDPの構成上はサービス業などの第3次産業の比率が高くなっており、中国国内でも高い経済成長率を維持しています。

3. 広東省の現状

広東省は、1990年代以降、輸出加工型の外国企業が数多く進出してきた、グローバル市場向けの製造拠点が集積し、「世界の工場」と称されました。しかし2000年代中ごろからは、人件費の高騰など製造コストの上昇、「両高一資」(高エネルギー、高汚染、資源消費)製品に対する製造管理の強化、都市化の拡大による製造拠点の立地再編が加速しており、産業構造の変化が求められてきています。この問題は、同省に進出している多くの日系企業にも言えることで、各社にとり、重大な経営課題となっていると共に、広東省にとっても大きな問題と言えるでしょう。

4. 広東省の今後

そこで、広東省政府は 2017 年 3 月 1 日に発表した「広東省実体経済企業のコストダウン工作方案」(粵府[2017]14 号)により、以下 6 項目を今年の重点目標として挙げています。

重点目標	主な内容
①税負担の合理的な引下げ	・営業税(役務提供にかかる税)から増値税(モノの販売にかかる税)への転換試行を全面的に推進し、全ての企業の税負担引下げ ・研究開発費用の所得控除の拡大
②資金調達コストの有効な引下げ	・小規模企業における無担保での資金調達を拡大 ・資金調達にかかる中間コストの引下げ
③制度的な取引コストの引下げ	・行政審査の仲介サービスを大幅に圧縮 ・貿易にかかる利便性の向上
④人件費の上昇を合理的に抑制	・最低賃金の改定頻度を引き伸ばす ・企業の社会保険負担引下げ
⑤資源や土地利用コストの引下げ	・企業における電力コストの合理的な引下げ ・土地供給制度の改善
⑥物流コストの大幅な引下げ	・企業間で設備を共有するなど、物流サービスの標準化を実施 ・物流企業が国民経済を保障する能力の増強

このように、様々な角度から企業の運営コスト等の引下げを図っていくことを方針とし、現在、企業の負担となっているコスト上昇を緩和し、企業の成長を促していくことを目指しています。これまででは、10%を超える高い経済成長率を背景に、多くの企業が成長を続けていましたが、ここ最近の経済成長の鈍化が相まって、当地における企業経営も転換期を迎えたと言えます。こういった状況を改善し、小康社会(ややゆとりのある社会)の実現に向けた広東省政府の方案が本件により示されたことから、今後についてはその具体的な取組み状況や企業の動向について、確認していく必要があると思われます。

一方では、当地が世界の工場として称された 1990 年代から、経営資源(ヒト・モノ・カネ)が集めやすく、新興企業が成長しやすい環境が整えられてきたこともあり、多くの新興企業が育っていることも特徴です。その代表格が、インターネットサービス大手の「騰訊(テンセント)」であり、中国系企業として初めて株式時価総額で世界トップ 10 に入り、話題となりました。その他にも、日本市場でも販売が好調なスマートフォンの販売シェア世界第 3 位の「華為技術(ファーウェイ)」や商用ドローン世界最大手の「大疆創新科技有限公司(DJI)」といった中国系企業も皆、中国広東省に本社を構えていることから、新たな産業分野での成長が期待できるものと思われます。

5. まとめ

広東省は、輸出加工貿易型の産業構造からの転換期を迎え、進出している日系企業にとっても厳しい局面を迎えていると言えるでしょう。しかしながら、中国全体の経済成長を上回るスピードで成長を続けており、広東省政府による企業の運営コスト低減に向けた取組みや、「騰訊(テンセント)」を始めとした多くの新興企業が出てきている地域でもあり、中国内では、引続き高い経済成長が見込まれる地域であることは間違いのないと思います。

【トピックス】

－香港行政長官選挙－

1. 香港行政長官とは

香港政府の指導や法律・予算案への署名、高官の指名、裁判官の任免などの権限を持つ香港の首長であり、任期は5年で1度だけ再選可能となっています。

2. 選挙制度について

行政長官選挙では一般市民に投票権はなく、議員や財界などの団体別に、1,200人の選挙委員が選ばれ、この1,200人による投票により、過半数を得た者が当選する仕組みとなっています。しかしながら、選挙委員の多くは中国寄りの立場をとる親中派であり、中国側の意向が色濃く反映される仕組みとなっていると言われています。このようなことから、3年前に香港において、民主的な直接選挙を求める大規模なデモ(雨傘運動)が起きましたが、その要求も拒否され、現在も中国政府により擁立された親中派候補が圧倒的に有利な立場にあります。

3. 選挙結果について

2017年3月26日、香港で行政長官選挙が行われ、中国政府の支持を受けていた林鄭月娥(キャリー・ラム)氏が当選しました。当職に女性が就くのは初めてのことです。林鄭氏は香港政府の官僚出身で、2012年から政府ナンバー2の政務官として現職の梁振英長官を補佐してきた人物です。しかし林鄭氏は、評判の悪い現政権の中核にいた人物として香港市民の間で人気は低いものでした。有力な対立候補となったのが曾俊華(ジョン・ツァン)氏。曾氏についても政府ナンバー3のポストである財政官を務めてきた人物ではありましたが、中国政府の息のかかった林鄭氏と比較すると世論調査の支持率も高く、中国政府に批判的な民主派は曾俊華を支持し、選挙に臨みました。しかし結果は選挙委員の約4分の3を占める親中派陣営の支持を固め、1回目の投票で777票と当選に必要な過半数を獲得した林鄭氏の圧勝という結果となりました。

4. まとめ

今回の行政長官選挙においても見られますように、香港では親中派が有利となるような仕組みが確立されています。この流れを止めるべく、前述しました雨傘運動のような政治デモを実施し、公正な選挙を訴えても、結局は中国政府によって抑圧されているのが現状です。

「一国二制度」として、独立性が保たれている香港ですが、今後、香港はどのような道を歩んでいくのか、非常に注目される場所だと思います。

【ニュース一覧】

〈香港〉

- ・経済
 - －3月の日経・香港 PMI、49.9 に上昇(4/7)
- ・金融
 - －1～3月の香港新規株式公開、前年比倍増の40社(4/6)
- ・不動産
 - －香港人の住宅購入価格、平均1億円超(4/5)
 - －第1四半期の売買件数、前年同期の2.1倍・成約額は2.4倍(4/6)
 - －高級オフィス空室率、2008年以来最低を記録(4/10)
 - －中古住宅価格指数、8週連続で過去最高を更新(4/18)
 - －公営分譲住宅、倍率38倍(4/18)
- ・観光
 - －2月の香港への旅客数、2.7%減(4/3)
 - －3月の訪日客数、2.2%増(4/20)
- ・労務
 - －香港企業の平均賃上げ率、3.8%に鈍化(4/3)
- ・その他
 - －タクシー運賃、初乗り2ドル引上げ(4/7)

〈広東省〉

- ・経済
 - －1～2月の工業企業利益、15.2%増(4/3)
 - －3月の製造業 PMI、51.6%に上昇(4/5)
 - －1～2月の固定資産投資、広州市で7.5%増、深圳市で22.9%増(4/5)
 - －1～3月の貿易総額、15.4%増(4/20)
- ・不動産
 - －深圳市、新築住宅価格6ヵ月連続で下落(4/13)
- ・労務
 - －深圳市の最低賃金、6月から4.9%引上げ(4/5)
 - －深圳市、高度人材の年齢制限撤廃(4/12)
 - －海外人材、毎年15万人誘致(4/19)
- ・その他
 - －有効発明特許件数、7年連続で全国首位(4/19)

(出所:各種新聞報道等)

【香港コラム】

－香港で人気のスポーツ－

1. 人気のスポーツ

香港では、どのようなスポーツが人気であるのかご存知でしょうか。香港ではウォーキング・ジョギング・ランニング・ハイキングが人気になっています。香港人は、ウォーキングやハイキングなどを「スポーツ」として捉え、休日には少し遠出をしても、これらの「スポーツ」を楽しんでいます。そこで今回は、その人気の理由と人気スポットについてご紹介いたします。

2. なぜ人気なのか

理由は香港の土地の特徴が関係しています。香港には、ウォーキングやジョギング、ランニングができる岸や公園などが多く存在しており、所々に登るにはさほど苦にならない程度の山があります。香港の土地の大部分は山地が占めているため、山登りも人気ですが、ウォーキングは小さなお子様を持つ家族やカップル、またペットと一緒にでもできることが、より支持されている理由となっています。普段は都会の喧騒の中にあるオフィスで働く香港人としては、たまの休日に自然の中で過ごすこのような機会はとても貴重なのかもしれません。また、香港には多くの海外企業駐在員などもおりますので、香港人と同様にそのような場所で過ごす時間は、精神的にも心が安らぐ瞬間となるのではないのでしょうか。

3. 人気スポットのご紹介

香港には多くのウォーキングスポットがありますが、その中でも特に人気となっている場所をご紹介します。

《ドラゴンズバック》

丘の頂上の間を縫うように続く道を進むため、その道中は龍の背骨の形を連想させることから、このような名称となっております。ウォーキング中、各所から美しい海岸線を見ることができることや都心からのアクセスが良好なことから、人気のスポットとなっております。

4. 終わりに

この他にも、ウォーキングなどに適した同様のスポットが香港内には多々ございます。香港といえば、ビクトリアピークから望む百万ドルの夜景が有名ではありますが、ウォーキングなどのスポーツを楽しみながら、このような美しい景色を見るというのも、また一興ではないのでしょうか。